



コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館 TEL：0220-55-2124
 (指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会) FAX：0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



地域づくり計画の策定について

登米市まちづくり基本条例では、コミュニティ組織は、地域が抱える課題の解決に努めるものとし、その課題を解決するため「地域づくり計画」に取り組むことと規定されています。

地域づくり計画は5か年計画で、令和5年度が5か年計画の見直しを行う年になっています。4月には計画策定委員会を設置し、現状分析、アンケート調査、分野別目標の作成、具体的な事業内容の検討等を経て地域づくり計画を作成、住民周知を経て来年3月に完成させる予定です。

地域の皆さんにはアンケート調査をお願いするほか住民説明会等も開催したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

3月のコミュニティ事業報告

3月はコミュニティ事業が盛りだくさんでした。3月1日は登米市主催の平筒沼クリーンアップ作戦が行われ、吉田地区と豊里地区の皆さんに加えて食肉処理場に立地するIHミートパッカーの社員を含め46名が参加し、合計38.1kgのゴミを回収しました。参加された皆さん、早朝からありがとうございました。

同じく3月1日に平筒沼の桜写真コンクール表彰式を行いました。8名の方から16作品の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞と優秀賞にとよま自然クラブの及川清司さん、優秀賞に中塚行政区の千葉鶴子さんの作品が選ばれました。おめでとうございます。写真コンクールに応募された作品は、平筒沼YOUYOU館にて4月23日まで展示しております。ぜひご覧ください。

3月12日には、吉田地区世代間交流レクリエーション大会を3年ぶりに開催しました。今年はコロナ対策として三密を避けるため、会場を旧善王寺小学校グラウンドと善王寺コミュニティセンターの二つに分け、グラウンドゴルフを実施しました。3年ぶりの大会に約150人が参加して大いに盛り上がりました。優勝は、町吉田Aチーム。2位は中新田Bチーム、3位は新田Aチーム。おめでとうございます。

3月15日には、「としよりの居場所づくり事業」として12月から実施してきた室内グラウンドゴルフの集大成として3回の予選大会上位者26名で競うグランドチャンピオン大会を登米蔵ジウムで開催しました。ホールインワンを9名が記録するなどハイレベルな大会となり、接戦の末にグラウンドチャンピオンには中新田の菅原薫さん、2位は山吉田の浅井恵代子さん、3位は山吉田の鈴木保夫さんに決定しました。おめでとうございます。利用者の方から「おかげ様で冬も楽しく過ごせた。」「リハビリに最適だった。」などの声をいただきました。来年度も開催しますのでご期待ください。



(最優秀賞「朝霧の平筒沼1」)



(世代間交流大会の様子)



(チャンピオン大会 上位入賞者)

戦後 間もないころの航空写真を掲示

吉田公民館玄関ロビーに昭和22年と昭和36年に撮影された吉田地区の航空写真をパネルに貼って掲示しています。昭和22年の写真はアメリカ軍がカスリン台風の直後に撮影したもので、昭和36年の写真は国土地理院が撮影したもので、電子データとして公民館で購入しました。縮小拡大が可能ですので、昔の我が屋敷を見たいという方は遠慮せず公民館においでください。ぼやけますがパソコン上で拡大して見ることができますし、複写も可能です。公民館にご相談ください。

裏面もご覧ください →

吉田先人大学第4回学習会並びに閉級式

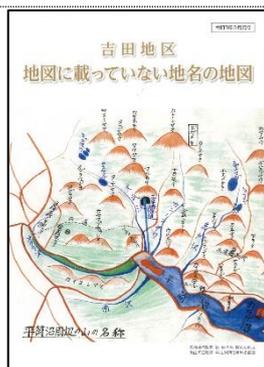
3月17日（金）盛り沢山の内容で今年度最後の学習会を開催！！

1 時間目は、これから始まる夏野菜づくりの基本と題して県登米農業改良普及センターの職員本田修三氏に野菜が健全に育つ条件や土壌水分と根の関係、水分が多い時の根腐れ防止、肥料の与え方、病害虫等の講話を頂きました。2 時間目は特殊詐欺被害防止対策として宮城県警の広報用 DVD を視聴し、3 時間目は体育の時間で心と体のリフレッシュ！！「外仕事の前に筋トレしませんか！？」題して株式会社マルシンの薄井愛先生に椅子に座ったままでも出来る簡単ストレッチや、仕事前、つまずき防止の筋トレ等を指導して頂きました。

参加者からは「どの学習もとても参考になった。ストレッチや筋トレ等出来る範囲で頑張り、来年度も参加したい」と感想を頂きました。



吉田地区地図に載っていない地名の地図 発行



昨年度発行した保存版吉田地区遺跡マップに引き続き、今年度は現在発行されている地図に載っていないけれど、古くから使われている地名を地図に落とし込みました。江戸時代に使われていた地名がすでにどこだったのかわからなくなっていることを考えると今記録しておくべきと考え発行しました。表紙は貝待井行政区の故佐々木智さんが残してくれた絵図面です。右下にある「フスンバ」は江戸時代に平筒沼に置かれた仙台藩直轄の不寝番のこと、左側にある「オグラヤマ」とは仙台藩に納める年貢米の御蔵があった場所のことです。地名は文化遺産としてもっと充実した内容にしたいので、公民館まで情報提供をお願いします。

館長の戯言（ざれごと）No. 17 「ほいど」（参考図書：方言に生きる古語）

コミュニティの前会長の高橋さんが公民館にお見えになり、雑談をしていたところ「ほいどって言葉ぬも漢字あんだつたをね」と問いかけられました。確か“ほいとう”という仏教に関する用語だったはずですよと返答して、その場で広辞苑を引っ張り出して調べてみました。

漢字で書くと「陪堂」読みは「ほいとう」（ホイは唐音）意味は①禅宗などで、僧堂の外で陪食を受けること。②飯米や食事を施すこと。③ものもらい。乞食。とありました。陪食とは身分の高い人と一緒に食事をするという意味です。お寺でお堂の外にいて食べ物ももらうお坊さんから転じて乞食やものもらいを意味するようになったとのこと。「ほいど」は由緒正しき仏教用語だったのです。実は乞食も仏教用語で「こつじき」と読み、お坊さんが自分の生命を保つために人に食べ物などを乞うこと（托鉢）が本来の意味だったそうです。